

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：市民と共に ミュージアム IPM

事業者名：独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館

住所：福岡県太宰府市石坂4-7-2

TEL：092-918-2818 FAX：092-918-2821

HPアドレス：<http://www.kyuhaku.com/pr/>

連携事業者名：九州歴史資料館、福岡県立美術館、筑紫野市歴史博物館、太宰府市文化ふれあい館、奴国の丘歴史資料館、大野城市歴史資料展示室、久留米大学比較文化研究所、NPO 法人文化財保存活用支援センター、NPO 法人ミュージアム IPM サポートセンター

会場：九州国立博物館

事業期間：平成22年6月15日 ～ 平成23年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

九州国立博物館へは、各地の美術館・博物館から保存管理の一貫としての IPM について、ボランティア導入の相談や事例紹介の要請が年々増えてきた。そこで、19-20 年度の 2 年間にわたり、市民協同型 IPM システム構築に向けてその活動の実現性や将来モデルについて、科学研究費補助金による基礎研究を行い、昨年度の本事業により、それまでの実績を基にモデルプログラム案を策定することができた。22 年度はさらにステップアップし、23 年度も含めて 2 年計画の研修に取り組み、地域や市民との危機管理意識の共有に基づく連携を見据えたミュージアム IPM 支援者育成プログラムを提示することにより館の役割を果たしたい。

2. 企画内容

①事業目的

本事業は市民の直接参加による IPM 活動を地域のミュージアムで展開可能な枠組みとして提案し、支援者育成を目指している。今年度は 21 年度の成果をもとに、ミュージアム IPM 支援者育成プログラムを策定し、館の保存管理機能の基盤強化と共に、館の規模や設置形態を超えて地域のミュージアム支援者層の拡大に寄与することを目的としている。こうした活動を支えるのは何よりも市民の関心と共感の輪であり、地球規模での環境配慮の一環としての市民参加型のミュージアム IPM 活動についてより広範な社会的支持を得るための普及活動も共にすすめたい。

②事業概要

1. 人材育成プログラムの策定 … 専門家や有識者による会議を開催し、前年度の本事業による策定案に基づきモデルプログラムを策定、実施し参加登録者の意見を加え、検討協議をかさね、設置目的や館の形態を超えてプログラム案を策定する。
2. モデル研修会の実施 … IPM ボランティア導入検討館が推薦する者の中から事前に申し込みを受け、20～30 名程度の登録制とする。
3. 公開シンポジウムの開催 … 市民協同型ミュージアム IPM の必要性・重要性を広く社会へ紹介するとともに、その担い手であるボランティアや NPO 法人等支援者達からのメッセージを地域社会へ直接伝える場とする。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

①公開シンポジウムの開催

第1部 市民報告会	8月21日(土)	14:00~16:50
第2部 講演会	8月22日(日)	10:40~12:05
第3部 意見交換会		13:30~15:00

②ミュージアム IPM 支援者育成プログラムの策定

協力者会議

第1回	10月15日(金)	14:00~18:00
第2回	1月28日(金)	14:00~18:00

地域協力者会議 ※第2回は協力者会議と合同開催

第1回	11月22日(月)	10:00~12:00
第2回	1月28日(金)	14:00~18:00

ワーキンググループ検討会

第1回	7月5日(月)	15:30~17:30
第2回	9月15日(水)	15:30~17:30
第3回	1月4日(火)	15:30~17:30
第4回	1月19日(水)	15:30~17:30
第5回	2月10日(木)	15:30~17:30
第6回	2月21日(月)	15:30~17:30



1. プログラム策定会議



2. 地域協力者会議

③ミュージアム IPM 支援者育成研修（基礎編）

講義 11月21日(日) 13:00~18:20

ガイダンス 13:00~13:30

ミュージアム IPM 概論 13:30~15:00

保存科学概論 15:10~16:40

IPM 情報収集概論 16:50~18:20

実習 11月22日(月) 9:00~17:00

ワークショップⅠ 9:00~10:30

ワークショップⅡ 10:40~12:10

ワークショップⅢ 13:50~15:20

ワークショップⅣ 15:30~17:00

見学・討議 11月23日(火・祝) 9:00~15:30

施設見学 9:00~10:50

事後レポート作成 11:00~12:00

総合討議 13:30~15:00

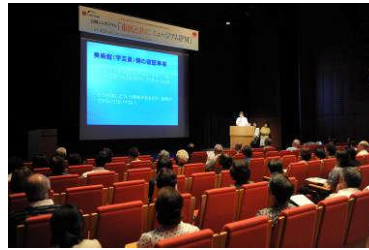
閉講式 15:15~15:30



3. 公開シンポジウム
(基調講演)



4. 公開シンポジウム
(会場風景)



5. 公開シンポジウム
(市民報告会)



6. 公開シンポジウム
(意見交換会)



7. 公開シンポジウム
(意見交換会)



8. ミュージアム IPM 支援者育成研修
(「ミュージアム IPM 概論」)



9. ミュージアム IPM 支援者育成研修
(「IPM 情報収集概論」)



10. ミュージアム IPM 支援者育成研修
(ワークショップⅠ)



11. ミュージアム IPM 支援者育成研修
(ワークショップⅣ)



12. ミュージアム IPM 支援者育成研修
(総合討議)

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 396 人

内 訳：

公開シンポジウム … 236名

(IPM 活動実施機関、文化財保存教育機関関係者など・一般)

第1部市民報告会 127名

第2部講演会・第3部意見交換会 109名

ミュージアム IPM 支援者育成研修 (基礎編) … 58名 (参加登録者)

1日目 講義 (3回) 63名

2日目 実習 (4回) 80名

3日目 見学・討議 (1回) 17名

(3) 事業により作成した印刷物等

○チラシ、ポスター、予稿集

公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム IPM」

ODVD

公開シンポジウム

○事業報告書

「市民と共に ミュージアム IPM」報告書

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

実績なし

○テレビ、関連誌等

実績なし

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

事業の成果

本事業の研修会やワークショップの登録者は、九州国立博物館および地域連携機関のボランティアや NPO 法人活動者の他に、多数の地域の美術館・博物館等文化財関連機関のスタッフである。昨年度事業についての情報がひろまったことにより、ボランティア導入を検討している機関からの参加者が急増したともいえよう。また、引き続き本事業実施中にも美術館・博物館等文化財関連機関をはじめ全国各地からの問い合わせや参画希望が寄せられた。こうした参加者内容や問い合わせから、日本では、まだまだ IPM の導入に苦労している状況があらためてみえてきたことも確かである。

「モノ・ヒト・環境にやさしい」施設運用が目指され、IPM の導入事例も増加してきているとはいえ、まだまだ社会的な認知度は必ずしも高いとはいえない状況の中での、本事業実施の意義と効果を物語るものであろう。

本事業は、いわゆる「マニュアル」を提示する段階ではなく、その形態や内容も含めての支援者育成のプログラム作りのためのモデル研修会等やシンポジウムを開催し、参加登録者の感想や意見を得るという目的であり、上記により概ね達成された。

昨年度の参加者からの具体的な意見や指摘を受けて、研修会を短期集中型で実施したわけであるが、今年度参加者のアンケートから判断する限り、その効果は高かったようであり、充実したプログラムを円滑に進めることができたばかりでなく、参加者の理解度も深かった。

本事業により、全国展開可能な IPM ボランティア育成プログラムモデルの基礎を構築することができたばかりでなく、本事業をとおして、多方面での地域機関との連携協力が深まったことも成果といえよう。

今後の課題

本事業が、地域の関係機関のみならず、全国各地から関心を受けたことも、地域市民直接参加の可能性が社会的な要請であることを示している。

資料保管のための IPM 活動についても、ボランティアや NPO 法人等による自己実現や奉仕活動あるいは社会貢献活動の一つとして十分に成り立つ可能性がみえてきたといえよう。

2 年間にわたる本事業により、全国展開可能な IPM ボランティア育成プログラムモデルの基礎を構築する機会を得たので、来年度からは積極的に地域の文化団体の協力を受けて、さらにフォローアップ研修も企画し、本基礎プログラムとあわせて実施していく計画である。

なお、全国規模でのミュージアム IPM 支援者の恒常的研修や、IPM に関する資格等の制度化も今後の課題となるであろう。